

施策マネジメントシート ～令和6年度の振り返りから令和7年度の取組へ～

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(5月中旬に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	ひと分野	担当課	教育総務課・学校教育課			
	政策分野	子育て・教育	課長名	川畑利昭・常山隆治			
	施策	15 学校教育の充実		重点施策の該当	R6	-	R7
施策の目的	対象	児童、生徒、保護者、教職員	意図	これからの社会を担い、自らの未来をたくましく切り拓く「ひとりだち」の力を備えた児童生徒を育成する			

施策の目標指標

目標指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					
	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標
鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が80%を超えた教科数(小学校全40教科)	22	32	33	31	34 (40)	(40)
鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が70%を超えた教科数(中学校全10教科)	9	9	7	7	7 (10)	(10)
不登校(年間30日以上欠席)の小・中学校児童・生徒数の全体における割合(%)	1.1	2.5	3.6	4.3	3.9 (0.0)	(0.0)
体力・運動能力調査(小5・中2,男女別全32種目)で県平均を上回った種目数	26	27	30	18	26 (32)	(32)

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

令和3年度実績		令和4年度実績		令和5年度実績		令和6年度実績		令和7年度実績	
重要度(%)	満足度(%)								
84.1	32.8	86.1	33.4	83.8	30.2	82.5	31.7		
重要度DI	満足度DI								
82.6	15.7	84.4	15.5	82.3	9.1	80.2	13.5		

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連戦略No.	成果指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					
			2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度目標
自ら学び自立する力をはぐくむ教育の推進	11-27 11-28	鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が80%を超えた教科数(小学校全40教科)	22	32	33	31	34 (40)	(40)
自ら学び自立する力をはぐくむ教育の推進	12-31	鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が70%を超えた教科数(中学校全10教科)	9	9	7	7	7 (10)	(10)
規範意識を養い、豊かな心をはぐくむ教育の推進	11-27 11-28	不登校(年間30日以上欠席)の小・中学校児童・生徒数の全体における割合(%)	1.1	2.50	3.60	4.3	3.9 (0.0)	(0.0)
健やかな体をはぐくむ教育の推進		体力・運動能力調査(小5・中2,男女別全32種目)で県平均を上回った種目数	26	27	30	18	26 (32)	(32)
健やかな体をはぐくむ教育の推進	11-27 11-28	小学生DMF指数(過去にむし歯になったことがある数値)	1.7	1.3	1.6	0.8	1.6 (1.0)	(1.0)
健やかな体をはぐくむ教育の推進		中学生DMF指数(過去にむし歯になったことがある数値)	1.6	2.2	1.6	2.5	1.7 (1.2)	(1.2)
教育環境の整備・充実	11-27 11-29	各学校からの修繕要望に対し、修繕を実施できた割合(%)	46.1	41	79.8	86.3	75 (49.0)	(50.0)
教育環境の整備・充実	12-31	奨学資金返還免除制度の新規猶予申請する者の数(人)	0	3	1	4	0 (2)	(2)

施策マネジメントシート ～令和6年度の振り返りから令和7年度の取組へ～

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応		
[学校教育課] 基本事業No.51・52・53	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習者主体の授業」による学びの質の向上が求められている。 ・不登校の状態にある児童生徒へのよりきめ細やかな対応が求められている。 	
[教育総務課] 基本事業No.54	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の大半について、老朽化による危険性が年々増加の傾向にある。また、児童生徒が減少の傾向にあることから、今後の学校の在り方の検討が必要となってきた。 ・再編交付金事業の教育関連事業の増加に伴い、担当する技術職員不足が問題となっている。 ・人口減に伴い、労働者不足が深刻となっている。免除制度の周知充実を図り、若者定住増加が求められる。 	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題		
	成果	現状・課題
[学校教育課] 基本事業No.51・52・53	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島学力・学習状況調査においては、学力の向上において着実に成果が得られている。 ・不登校の児童生徒に対して、校内におけるケース会議や情報共有による共通理解・共通実践と関係機関との連携の充実が図られている。特に、スクールソーシャルワーカーとの連携による効果が得られている。 ・一校一運動や教科体育における運動時間の確保等により、体力が高まっている。また、治療率を高めることにより、歯を大切にす意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、表現する力を高めるために、複式学習指導法研修会やICTの活用に関する研修会などを通して、指導法の改善が必要である。また、積極的な研修会へ参加を促し、教職員の授業力向上が必要である。 ・不登校の状態にある児童生徒の割合は、若干減少している。子供の実態をよりの確に捉え、個に応じた対応に努める必要がある。さらにスクールソーシャルワーカーの活用を通して、家庭との連携を進め、児童生徒を取り巻く環境の改善を図る。 ・う歯治療率の向上や再罹患させないために、保護者への啓発や予防歯科への取組を充実させる必要がある。
[教育総務課] 基本事業No.54	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に実施設計業務が完了した屋内外運動場や防犯整備事業、教職員住宅改修事業、渡り廊下改修事業など令和6年度に事業完了及び事業着手することができた。防犯対策整備事業については、榕城小学校は事業完了したが、その他(下西小・伊閑小・種子島中)については、入札不調等により次年度以降への事業見送りとなった。引き続き、防衛省等との協議申請を進め、各施設改修等事業を進めていく。 ・その他、突発的な修繕依頼等については、現場の状況を確認しながら、迅速に対応するよう努めており、学校からの評価も一定得ているところである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設について、校舎は一部の学校を除いて多くが老朽化しており、爆裂などによる危険性も増加傾向にある。校舎以外の屋内外運動場などは、順次改修することとしている。校舎については、児童数の減少も考慮して、学校の在り方等検討していく必要がある。 ・スクールバスについては、老朽化により修繕が多くなっていることから、再編交付金事業による更新(大型3台)を令和7年度に計画している。 ・教職員住宅について、学校施設同様老朽化が進んでいると同時に住宅設備においても改修が求められている。改修計画を策定しており、順次改修を行っていくこととしている。また、馬毛島関連で教員の住宅確保が困難となることから、教員住宅の需要が高まってきている。 ・奨学金の収納状況については滞納が多く残っているところであるが、コンビニ収納や定期的な催告通知、また分納相談等受けながら少しずつ滞納額が減ってきている状況にある。また、免除制度については、少しずつ増えているが、更に周知を図りながら、本市への若者定住に向けた対策が必要である。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)	
拡大・充実	[学校教育課] 基本事業No.51・52・53	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研修機会の充実を図り、特に複式学習指導や個別指導にかかる指導力の向上を図る。 ・スクールソーシャルワーカーの活用を通して、児童生徒の不登校の状態の改善に努める。 ・う歯保有率の低減、治療率の向上に努める。
拡大・充実	[教育総務課] 基本事業No.54	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全般の老朽化対策や大規模な再編交付金事業などが続くことから、予算規模が増加することが見込まれる。加えて、業務量、職員への負担等も考えると、組織体制も含めてさらに充実させていく必要があると思慮される。

②-2 政策部会による振り返り(Check)

(6月中に記入)

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)	
拡大・充実	[教育振興部会] 施策担当課の記載する方向性のとおり。	